

支部協だより

第121号

発行所
 NTT労組退職者の会
 沖縄県支部協議会
 沖縄県浦添市城間4-35-2
 TEL.098-870-7101
 FAX.098-875-7450
 責任者
 瀬良垣 武安

集団的自衛権行使、絶対許さないの声を

副会長 渡嘉敷 直久

7月1日安倍内閣は、集団的自衛権の行使容認を閣議決定した。集団的自衛権は密接な関係にある他国が戦争に突入した時、自国が攻撃されてなくても戦争に参加することで、他国とはアメリカのことを言うのであろう。

憲法には「第二章戦争の放棄」と明記されており、第9条は戦力は保持しない、交戦権はこれを認めないとしている。他国のために戦争をする集団的自衛権が認められないことは明らかである。今日まで、歴代の自

民党政権は「集団的自衛権は憲法上許されない」としてきたのである。時の政権の一存で、これほど強引に憲法解釈変更が強行される



ことが許されていいはずがない。安倍政権は砂川判決の都合の良い引用で行使容認を強調するが、砂川判決後も自民党政権は「集団的自衛権は憲法上許されない」としてきており、自民党の中核にいた人たちからも反対の声があがっている。さらに、自衛権発動の3要件が安易な戦闘への歯止めになると説くが、歴代内閣の憲法解釈を強引に変更する暴走内閣を信用できるはずがない。

さて、集団的自衛権の行使で最も危険な地域はどこか。言うまでもなく沖縄である。辺野古への新基地建設、特定秘密保護法などなど「戦争する国」に舵を切る自民・公明政権に、集団的自衛権絶対反対の声を、特に沖縄から上げ続けなければならぬのではないかと。自公政権の暴走ぶりに、多くの国民から猛反発があったことは当然で、「戦争をさせない1000人委員会」が発足し、集団的自衛権の行使反対、安倍政権打倒を訴えるとともに、立憲主義や法治主義の大原則を破壊するものであるとし、署名活動や運動の拡大を提唱した。ノーベル賞作家の大江健三郎氏、評論家の佐高信氏、各界第一線で活躍する学者、文化人など多くの知名士の名前があり、大田昌秀元沖縄県知事、高良鉄美琉大教授も名を連ねている。このような広範な反対運動で、国民特に若者の意識が高まりを見せていることも重要なことである。

滋賀県知事選挙では自民、公明推薦候補が、元民主党国会議員に敗れた敗因を、集団的自衛権行使を可能とする憲法解釈変更の閣議決定後、内閣支持率が下落し、逆風となった。と新聞は解説している。やはり、声を上げ集団的自衛権の危険性、暴走安倍内閣打倒を訴えていくことが重要だろう。

「ピースすてーじ行動」に参加して

南部 敦子



私は昨年(平成25年1月)、札幌市から沖縄県に移住しました。「6月23日、25日」は情報労連のピースすてーじの取組みとして、「かてな基地」周辺を17km歩いたり、戦跡をたずねて沖縄の過去と現実に向き合う日となっています。

私は退職する前には、この大会には一度も参加した事がなく沖縄に来たので、昨年からは参加し2回目となります。全国の人々(300名)と、沖縄在住の方(100名)と共に歩くのを楽しみにして参加しています。

6月の沖縄は「梅雨」に入っており、晴れていても湿度が高く、昨年は晴天だったため歩いていて汗がびしょり!! すごい汗が噴き出す始末でした。今年(梅雨本番)行動する前から雨となり、100円のカッパと大きな麦わら帽子で歩いたが、ものすごい雨が降ったため雨が身体の中に入ったのか? 自分の汗か? 雨の中の行進でした。

「沖縄から基地をなくせ!」「沖縄には基地はいらない!」「辺野古には基地を作らせない!」

かてな基地周辺を9時から14時30分頃まで(うち昼食に40分)、約5時間17km歩いたが、道路から見える基地の中はさまざま、きれいに整備された道路の片側には基地内の人が入る「官舎」(マンション等)がずらり……。そのそばには子供達が遊ぶ遊具がいっぱいある。この様な景色を見ながらの行進である。

複雑な思いを持ちつつ……。沖縄の現状を全国の皆さんに知っていただきながら、又来年も歩こうと思う!!

(沖縄県退職者の会)

通魂之塔

顧問 黒島 善市

糸満市摩文仁の県立平和祈念公園内には、沖縄平和祈念堂、平和祈念資料館、平和の礎として各県の慰霊碑があります。その一角に、去る大戦で亡くなられた通信省で働いていた私たちの先輩426柱を祀った通魂之塔があります。

通信省とは、現在のNTT、郵政、KDDIの前身で、昭和24年に郵政省と電気通信省(その後さらに電電公社などに郵政も分割)のことで、そこに働く仲間を連友とも呼んでいました。

その通魂之塔は復帰7年前の1965年6月23日に建立されました。建立に当たっては、琉球電電、郵政、国際電電そして労働組合員の資金・カンパでは到底間に合わず、その何倍もの資金が本土の郵政省、日本電電、国際電電、全通、全電通、国際電電労組その他関係事業者など労使一体となり多大な浄財として寄せられました。

6月23日の「慰霊の日」には毎年、会社側と労働組合そして遺族の方々が献花と焼香を執り行っています。また、ピースすてーじでは、全国各地から参加した組合員、退職者の会が献鶴・焼香をしています。

会員の皆さんも、南部方面へ行かれた際は、平和祈念資料館や平和の礎、そしてほんの少しだけ足を運び、通魂之塔で手を合わされたいかがでしょうか。



生き生き通信

ただ今現役

生き生き

ボランティア活動

安里 優



私がボランティア活動をしように思ったきっかけ

私は昨年まで(公財)沖縄県労働者福祉基金協会というところで、ひとり親世帯や要介護高齢者などを抱え、なかなか就職できない就職困難者に対し、子育て支援相談、介護支援相談及び就職活動支援などの必要な支援を行い、就職や就労の継続を図る事業に従事しておりました。私はこの事業を通して、こんなにも大勢の人たちが生活にたちゆかなくなっているんだという現状に驚かされました。そして、そのことがきっかけでボランティア活動に興味を持つようになりました。結果、私がボランティア活動に参加しているのが沖縄被害者支援ゆいセンターです。沖縄被害者支援ゆいセンターの活動を通して少しでも活動の輪が広がればと思っています。

が多発しています。そして、これらの事件・事故においては、多くの犯罪被害者やその家族、遺族が誰からも援助の手を差しのべられることなく、一人で悩み、苦しんでいるのが現状です。公益社団法人沖縄被害者支援ゆいセンターは、このような犯罪被害者に対して精神的支援やその他の各種支援事業を行うとともに、社会全体の被害者支援意識の高揚を図り、被害者等の被害の回復及び軽減に資することを目的に、平成16年3月に設立され、電話相談、面接相談及び裁判所・警察署等に出向く必要のある被害者に付き添う直接的支援活動を積極的に推進している民間被害者支援団体です。私は平成22年10月20日から補助職員として委嘱を受け相談業務に携わっており、主な支援内容は、「電話相談・面接相談・病院や裁判所への付き添い・被害者支援員の養成及び研修・被害者支援活動に関する広報啓発活動・被害者自助グループへの援助」です。相談員は当番制をとっており、なかなか顔を合わせる機会

はありませんが、1ヶ月に2回ケース検討会を行っています。ケース検討会では相談員が困難事例を報告し参加者全員で意見交換を行い、情報の共有を行うとともに、よい事例については水平展開を行うようにしております。ケース検討会の内容は、生活苦の相談も多く、やはり一人では生きて行けず、周囲の人の理解と支援がなければ大変だと思われました。これはなにも被害者だけでなく世の中の人すべての人に共通する課題だと思えます。相談機関としての当センターの存在は着実に認知されてきていることを実感するとともに、きめ細やかな支援のさらなる充実が求められていることを痛感します。必要とされる支援を継続的に行える体制の整備、人材の育成と確保、財政基盤の確立などまだまだ課題は多く残っております。特に財政基盤は脆弱で、賛助会費や寄付で賄っているのが現状です。私は、できることから、まず賛助会員になると同時に中古パソコンを贈呈しました。被害者支援ゆいセンターの最重要課題は、財政基盤を安定させることだと思っています。そのためにはまず、正会員・賛助会員を増やす努力をします。では、どのようにすれば会員を増やせるのか、一

つ目に広報を充実させること、二つ目に医師会や経済会、さらに個人へ正会員・賛助会員の加入促進を図ること、三つ目に研修会を定期的に開催していくこと。特に二つ目の各界への協力要請は重要だと思えます。

久米島を訪問交流

副会長 垣花 廣光

3年前の総会で、「久米島在住のOBとの交流を」と提起された課題が実現してきました。アワやまた台風接近かと思われましたが、7月11日〜12日の2日間、瀬良垣武安会長以下8名が久米島を訪問、OBの浜元さん、喜久里さん、会員の西銘さん、平田さんたちと交流をしてきました。交流の夕食懇談会は和気あいあいと進行、時間が経つのもわからない程でした。



「来年もくるのだろうか」と話が弾むほどです。

本島からの会員は、久しぶりの久米島旅行で、久米島のきれいな街並の様相にびっくりしています。1万人を超えていた人口は、今は8300人余で、少子高齢化が進んでいるとのこと。一方、観光施設は整備され、32ホールの公認パークゴルフ場(交流団はそこで16ホール楽しみました)、久米島ホテルドーム(楽天チームのキャンプ球場)等が誘致されています。文化財認定も増え、五枝の松は樹木医の管理で若緑に元気付いています。上江洲家屋敷跡(琉球王朝時代の地頭代)、宇根のソテツ(喜久村家、ここに防空壕跡があります)、仲原善忠記念館(仲原先生の実家)、宇江城城跡、具志川城跡(いずれも復元中)等々、1日では見学しきれない旧所名所があります。地方にこそ文化の根が息づいています。

今、海洋深層水といえば久米島で、そのブランドをいくつか紹介します。海洋深層水を利用した発電です。50キロワット発電機が2台実験運転中です。また海洋深層水を使用した温浴プールは一度入浴すると止められませんね。我々庶民にはこれだけでも値打ちものです。また海洋深層水の低温を

利用し、冬野菜の栽培を体験中。収穫したばかりの「ほうれん草」を女性の皆さんは土産にもらっています。このほうれん草はAコープで販売しています。夢がいっぱいようです。2日目は、沖縄戦の痛恨の爪痕が残る、鹿山兵曹長の住民虐殺の話を、佐久田勇さんのガイドで胸の痛む思いで聴きました。久米島は6月23日、8月15日に関係なく鹿山兵曹長によって住民虐殺が続けられていたのです。このことは、前大田昌秀知事もよく語っていたことです。毎年、行われる慰霊祭の広場には、旧村別、左右に犠牲者の刻銘碑が建立されています。佐久田さんは、集団的自衛権の閣議決定を「国民をスパイ視し、国民を刑務所へ送る、戦前に戻りつつある」「人口減少(少子高齢化)により、国家公務員たる自衛隊員は応募者が減り、国民徴兵制(赤ガミ)で自衛隊員を強制確保する」時代が目前に来ているといっています。日本軍による住民虐殺は二度とあってはならない悲惨な事件です。軍隊は住民を守らない証拠です。

陶芸家兼農業者となった西銘豊さんから全員に、自作のコーヒークップがお土産に渡されました。久米島の皆さんありがとう。感謝、感謝。